

希学園 第409回 小4公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第409回公開テスト 小4国語 解説動画(2026年6月14日実施)	https://vimeo.com/1201110687/fab4e90a81

1

4	1
気軽	和式
5	2
入荷	代理
6	3
向	暑
け	さ

2

1 a	2
け	ひる
b	ね
け	3
c	ナマズ
か	4
d	ね
ら	穴

(4 完 答)

7	5 A
(記述題)	ひ
8	(5 A 完 答)
竜	ち
9	B
り	飛
10	(5 B 完 答)
小鳥	い
11	6
D	なみだ
	10
	計画

(8 完 答)

3

1	3 A
1	誰
2	(3 完 答)
イ	B
3	自
ア	4
2	真剣
エ	5
	どちら

6	7
ウ	惜
	(7 完 答)
	顔
	8
	釣り

2

7	7
とは	ぼくは
思	は
え	飛
ない	べ
い	ない
	い
	から
	自分
と	が
いう	竜
こと	だ

(同意可)

配点	
1・2	各2点×13=26点
3	6点
その他	各4点×7=28点
〈計〉100点	

1

- 1 「洋式」に対して、日本のやり方、むかしからの作り方のこと。
- 2 本人の代わりに何かをすること。依頼されて行う場合が多い。
- 3 「熱」「厚」など、同じ読み方をするものもあるが、気温が高いときは「暑」を使う。
- 4 かた苦しく考えないで行動する様子。何かをたのむときや参加してほしいときに「お気軽に」の形で使う。
- 5 荷物が仕入れ先からはいつてくること。
- 6 「できない」と結びつく、申しわけなくてその人の前に出られないという意味になる。

2

「彗星とさいごの竜」 今井恭子 ※ 問題作成の都合上、一部表記を改めています。

- 1 aは、いさましく強そうな様子。bは、ぐっすりと眠りつづけること。cは、今までと変わった様子が見られないさま。dは、ふたたびやりなおす様子。
- 2 ナマズのじいさんが食いつくまで気がつかなかったのは、眠っていたからである。じいさんを追いはらったあと、「ひるねのつづきをしよう」と考えているのだから、それまで「ひるね」をしていたことになる。
- 3 「ひどいこと」というのは、「じいさんの口先をいやというほど、けとばしてやった」ことであり、けとばされたのは「ナマズのじいさん」である。
- 4 「追いはらっ」というのも「じいさんの口先をいやというほど、けとばしてやった」ことをさしている。その結果、ナマズのじいさんは「ねぐらの穴へぬるりともぐりこんだ」のである。
- 5 すぐあとに、「ママが生きていたら」「パパがいてくれたら」とあり、今は「ママ」も「パパ」もいないことがわかる。つまり、「ひとりぼっち」だということ、これがAにはいる。さらにそのあとを見ていくと、「ひとりぼっち」は、まだ、がまんできる。でも、飛べないことが何より悲しかった。とあるので、Bも答えが決まる。Aで「できそこない」と答えるのは、「今は……になつて」に合わないし、これは「飛べない」ことをさしている。Bの答えともかぶつてしまふ。
- 6 水にもぐって泣いていたら、「なみだ」を流しても、外から見たときに泣いていることがわからなくてすむのである。
- 7 問いがどういふことを答えさせようとしているのかをよく考えることがたいせつ。「だからだ」をささむ前後をつなげばよいことに気づけばよいのだが、字数が少ないので短くまとめなければならぬ。前は「飛べない」があれば十分。あとのほうは二つの文があるが、けっきょく同じ内容で、「竜だと思えない（感じられない）」ということになる。
- 8 「竜としてのほこりは決してなくしちゃだめよ」というママのことばに対する答えとして、なくすどころか「最初からない」と言っている。
- 9 この時点ではだれの声かわからないが、「小鳥みたいないい声だ」と書かれていた。夢のなかであることだし、とりあえず声の主を「小鳥」と呼んでいると考えられる。
- 10 「計画」が何をさしているかはわからないが、竜の巨大なすがたを見て、「計画にはじゅうぶん」と言っているのだから、竜に何かをさせようとしているのがわかる。
- 11 「女の子」の登場の部分から二つめになる。「かん高いさけび声」が聞こえたのは「夢のなか」であり、その前のところで眠ってしまい、時間がたっていることも、だんらくの切れめとしてふさわしい。

3

「仕事」 神崎繁 (『子どもだって哲学』所収) ※ 問題作成の都合上、一部表記を改めています。

- 1 1は「だろう」、2は「ように」、3は「だったら」と結びつく。使わなかった「けっして」は「ない」と結びつく。こういうつながりを「呼応の関係」と言う。
- 2 「遊びは仕事か」という内容と「それとも」でつないでいるので、ア・イは「遊びは遊びか」になる。ウ・エは「勉強が仕事だ」に対して「勉強ではなく、遊びが仕事だ」と言っている。そのあとの文にも、「ほくにとって『遊び』は『仕事』で」と書かれている。
- 3 同じだんらくのあとのほうで、「自分からすすんでやるから、きつと楽しい」とあり、これは「遊び」のことを言っている。その前で「遊ぶときは、誰に言われなくてもそうしている」とあって、「ても」と結びつくことばが書かれている。
- 4 勉強や仕事は「遊び」ではないのだから「まじめ」にやれ、と言われて、遊びも「まじめ」にやらないと楽しくない、と反論している部分である。「遊び」と「仕事」「勉強」の共通点が答えになるのだが、二字で答えなければならぬ。
- 5 このあとから「釣り」の話が例にあげられているので、例が終わるところまで読んでいくと、最後の一文で「遊びは……のに対して、仕事は……」としてまとめられている。
- 6 すぐあとの「話している」にかかっているようにも見えるが、「ぼくに話しているのか……修理しながら」のあとに——線部を入れても意味が変わらないので、ウにかかっていることがわかる。エは、「ぼく」の動作だし、会話のことばがかかっているとは考えられないだろう。
- 7 「魚を戻す」ことに「抗議」するのだから、戻してほしくないということを「無言」の態度でしめしているところがあてはまる。
- 8 「行為や営みそれ自身に目的がある」のが「遊び」なので、「竿を手入れするとき」から「遊び」が始まっていることになる。ただし、「遊び」と答えると、二つめの⑥のあとの「という遊び」につながらない。